

令和5年度第1回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和5年10月13日(金) 午後2時～4時15分

2 会 場 小田原三の丸ホール スタジオ

3 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

田尾委員長、山下副委員長、秋山委員、高橋委員、星野委員、永山委員

(2) 市事務局側

柳下教育長、菊池部長、湯山副部長、田村生涯学習課長、

鈴木係長、土屋主査、田中主査、小澤主任、吉野主事、加藤主事

4 会議の概要

教育長の挨拶の後、委員及び職員が自己紹介を行った。その後、正・副委員長の選出に移り、委員の互選により委員長に田尾委員、副委員長に山下委員が選出された。その後、議事に移り、進行は田尾委員長が行った。

(1) 議題4 報告事項「令和4年度・令和5年度上半期 郷土文化館事業について」 (資料1～13)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和4年度 学校利用状況」(資料1-3)について

委員より、小、中学生の利用が少ないが、子供達に郷土文化館に足を運んでもらうため、所蔵資料を市内施設で巡回展示を行うなど、興味を持たせる工夫が必要であり、デジタルミュージアムについても、さらにアピールすることにより、総合学習などで活用されるとの意見があった。事務局から校長会とデジタル資料等の活用について相談しているところであるが、今後とも協議を深めるとともに、市教育研究所と学校利用促進活動について検討を進めていくと回答した。

② 「令和4年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料4-2)について

委員より、資料の閲覧等に関し、郷土文化館、図書館、尊徳記念館など各施設で手続方法が異なり、複雑であるとの意見があり、この点については事務局としてもその必要性を認識しており、各所管が集まる会議において著作権の処理問題をはじめ、手続きが統一できるよう検討していくと回答した。

また、資料提供の際の有料化について質問があったが、国会図書館をはじめとする国の各機関においても対応が異なっており、当面は研究課題としたいと回答した。

③ 「令和4年度 博物館構想推進事業における取組概要」(資料6-1)について

デジタル資料のアップロードに関する質問があり、高精細データについては容量の関係から個別対応としていることを回答した。

また、デジタルミュージアムに関し新博物館建設について質問があったが、デジタル化と博物館の建設は別の問題として捉えており、今後、バランスを取りながら建設について検討していくと回答した。

さらに、デジタル化はバーチャル体験ができ、大学のオンライン授業等、研究する場面においても大変有効であり、今後とも様々な分野と連携を取り内容を充実させてほしいとの意見があり、細部や裏側の観察等デジタルでなければできない利点もあり、博物館に来ていただき本物に触れる導線としても充実させていきたいと回答した。

④ 「令和4年度 博物館構想推進事業における取組概要」(資料6-2)について

委員より、デジタルミュージアムを創設するにあたり、デジタル化した資料点数は、当館が所蔵する資料の点数の何割かという質問があり、事務局から未整理の資料もあるため明確に回答できないが、半数未満と推測されると回答した。

⑤ 「令和5年度上半期 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料10-1)について

委員より石造物調査や収蔵古写真調査において、ボランティアを活用しているが、他に例があるかとの質問があり、今後の構想であるが、現在、海藻や植物等の標本整理を進めているところであり、そのような場面でボランティアの活動が期待でき、県立生命の星・地球博物館の学芸ボランティアなどの活動を参考にし、当市の市民学校との連携等を含めて検討していくと回答した。

⑥ 「令和5年度上半期 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料10-2)について

委員より竹製ものさしを歴史資料として取り扱っているが、民俗資料とすべきであるとの指摘があり、訂正し民俗資料として整理し直すとして回答した。

(2) 議題5 協議事項「小田原市郷土文化館条例等の改正について」(資料13)

このことについて、資料に基づき事務局から概要を説明し、委員より会議室の利用者の命の危険に係わる案件であり、会議室利用は廃止すべきとの意見が出され、承認された。

(3) 議題5 協議事項「令和5年度 下半期郷土文化館事業について」(資料7~11)

このことについて、会議資料に沿って事務局から概要を説明し、次のような討議が行われ、承認された。

① 「令和5年度下半期 博物館構想推進事業における取組計画(案)」(資料18-1)について

委員より、デジタルミュージアムに関する予算の内容について質問があり、事務局から市の単独財源による内容的にはランニングコストであり、具体的な支出してはシステムの保守管理費、人件費、撮影に関する経費等であることを説明した。

(4) その他

① 民俗資料室の展示について

委員より、民俗資料室の照明が明るくなり、スマホによる民具の動きが分かる新たな工夫がされていることを評価する意見があった。しかし、人を使って撮影していないため、使われ方が不自然な動画になっている点、鋤、鍬などの使い方が分かる動画を増やしてほしいとの要望があった。

② 人事配置について

郷土文化館職員の学芸員に民俗、歴史の学芸員が配置されておらず、人事配置を改善すべきとの意見があり、また郷土文化館協議会委員においても歴史関係の委員の配置をお願いしたとの要望が出され、事務局から人事の担当部門、教育委員会内部等で検討し協議すると回答した。

以上をもって協議を終了した。

協議後、郷土文化館で開催されている企画展「100年の記録と記憶～小田原の関東大震災～」の視察を行った。